

第2回

(しか) 伝わるように伝える(1) ～然るべき場所で～

今回は認知症の方に“伝えたいことを伝える”ポイントを紹介します。認知症は進行とともに、箸で食べる・歯を磨く・トイレに座る・手を洗うなどの生活動作が記憶から一つずつ消失して、できることが少なくなっていきます。それを防ぐには、生活動作を行う機会を絶やさないことが大事です。ところが、理解力の低下した認知症の方には、なかなか声掛けだけでは伝わりません。

例えば、食事をとっていた場所で、食後そのまま歯磨きをすすめると、歯ブラシを食べてしまわれることがあります。これは、食事や歯磨きなどの場所はそれぞれ決まっていて、日常生活の中で長年なじんできたため、それ以外の場所で行おうとすると勘違いしたり、

とまどってしまったりするのです。そのような時、“然るべき場所で行う”ようにするだけで、理解度が違ってきます。ベッドサイドではりんごと包丁を前に、どうしてよいか分からなかった方が、台所ではてきぱきと皮をむき出した例もあります。

このように認知症の方にとって、生活動作をする「場所」はとても大切です。然るべき場所で伝えることで、こちら側の思いが伝わりやすくなります。



文責：施設長 山本 忠弘（認知症介護指導者・介護福祉士・介護支援専門員）

フェイスブックもご覧
ください！

三喜会のグループホーム・
デイサービスセンターの
日頃の様子を紹介。
あわせてご覧下さい。



医療法人社団 三喜会
グループホーム・デイサービスセンター青葉台

〒227-0054 横浜市青葉区しらとり台3-9

TEL. 045(981)6900 〈グループホーム〉

045(982)3200 〈デイサービスセンター〉